

2019年12月9日

株式会社博報堂D Yホールディングス

株式会社博報堂

株式会社博報堂D Yメディアパートナーズ

**博報堂D Yグループ「健康経営支援プログラム」開発第一弾
“定期健康診断の結果をヘルスデータで可視化し、
社員の健康増進を促す”『健診戦』の結果速報を公開
参加者の78.9%が健康維持・改善を達成！**

株式会社博報堂D Yホールディングス（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）、株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）、株式会社博報堂D Yメディアパートナーズ（本社：東京都港区、代表取締役社長：矢嶋弘毅）は、「健康経営支援プログラム」の開発に向け、2019年8月より開始した定期健康診断結果とヘルスデータを可視化し、社員の健康増進を促す『健診戦（けんしんせん）』の社内実証実験（POC）結果を公開いたしますので、お知らせいたします。

健診戦結果サイト：<https://kenshinsen.jp/results>



今回、博報堂D Yホールディングス、博報堂、博報堂D Yメディアパートナーズ社員約4500名を対象に募集した健診戦には、1,509名（総エントリー数1,710名^{*1}）が参加し、参加者の健康維持・改善者率^{*2}は78.9%（不参加者75.1%と比較し3.8ポイント高）という結果となりました。また健康改善者率^{*3}については55.5%（不参加者51.3%と比較し4.2ポイント高）でした。合わせて実施した意識調査による参加者の健康意識向上率^{*4}は65.9%（不参加者42.5%と比較し23.4ポイント高）と健康に対する意識向上も図ることができ、健康維持・改善者率、健康改善者率、健康意識向上率いずれも不参加者と比べ参加者に有意な差がみられました。

■『健診戦』参加社員の健康改善結果 (N=1,509)

健康維持・改善率：78.9%

※昨年度と今年度の健康診断結果において対象9指標^{※5}のうちいずれかを好指標で維持または判定が改善した人の割合 (不参加者は75.1%)

健康改善率：55.5%

※昨年度と今年度の健康診断結果において対象9指標のうちいずれかを判定が改善した人の割合 (不参加者は51.3%)

健康意識向上率：65.9%

※アンケート調査にて、健診戦実施により行動または意識が変わったと回答した人の割合 (不参加者は42.5%)

3人に1人がメタボ改善 ※2018年メタボ該当/予備だった298人のうち31%(=93人)が改善

2人に1人が糖尿病リスク改善 ※2018年血糖値110mg/dl以上だった86人のうち47%(=40人)が改善

5人に1人が肥満改善 ※2018年BMI値 肥満該当だった403人のうち19%(=76人)が改善

2人に1人が血圧異常改善 ※2018年最高血圧 0-89 or 140以上/最低血圧 90以上だった74人の49%(=36人)が改善

3人に1人が肝機能異常改善 ※2018年γ-GTP 男性 150以上/女性 90以上だった60人の35%(=21人)が改善

5人に3人が痛風リスク改善 ※2018年尿酸値 8.0以上だった109人の63%(=69人)が改善

最も健康改善した年代は40代 ※社員の年代別で比較した健康改善率が最も高かった年代

健康維持・改善率

78.9%

※昨年度と今年度の健康診断結果において、対象9指標のうちいずれかを好指標で維持、または判定が改善した人の割合

健康改善率

55.5%

※昨年度と今年度の健康診断結果において、対象9指標のうちいずれかを判定が改善した人の割合

健康意識向上率

65.9%

※アンケート調査にて健診戦実施により行動または意識が変わったと回答した人の割合

■東京大学大学院医学系研究科 近藤尚己准教授のコメント (本実証実験実施・結果分析監修)

大半の社員が義務的なものとして行っている健診をエンタメ化することで、ゲーム感覚で健康づくりにコミットしてもらい、それに一定の効果がある可能性が今回の分析で示されました。エントリー者と非エントリー者の差は当初の予想以上で驚きました。一方、健診戦にエントリーした人はもともと健康意識が高い可能性等も考えられるため、今後厳密な分析が必要です。また、具体的な分析を進めることで、今後サービス展開に向けてより多くの人の関心を持ってもらい、また高い効果が出るような施策に期待しています。

今後は、フェーズ 2 としてヘルスデータの統合を行い多角的な分析を行い、健康施策の費用対効果を算出して施策の改善に活用したり、社員の健康状態に応じてデータに基づく健康改善アドバイスを提供するなど適切な PDCA が実施できるようなデータ分析を想定しています。

実証実験にて得られた知見を元に、健康経営と従業員の健康意識向上を支援する「健康経営支援プログラム」の開発を進め、さまざまな企業に提供することを目指してまいります。

【健診戦（けんしんせん）について】

「健康経営支援プログラム」開発に向けた社内実証実験として、2019年8月にスタート。9月実施の博報堂DYホールディングス・博報堂・博報堂DYメディアパートナーズの定期健康診断においてヘルスデータ（本実証実験への参加を希望する従業員個人単位のデータ）を取得し、前年度の自身の健康数値と今年度の健康数値を比較、その改善度を点数化・表彰化することで、従業員が楽しく参加でき、健康改善のモチベーションと健康診断結果の向上をサポートする施策です。

なお本実証実験の実施ならびに結果の分析にあたっては、東京大学大学院医学系研究科の近藤尚己准教授（保健社会行動学分野、健康教育・社会学分野主任）の監修を頂いています。

参考：2019年8月5日発表ニュースリリース

<https://www.hakuhodody-holdings.co.jp/news/corporate/2019/08/2291.html>

※1：総エントリー数 1,710 名のうち、比較対象データが抽出できた 1,509 名を集計対象としています。

※2：昨年度と今年度の健康診断結果において、対象 9 指標^{※5}のうちいずれかを好指標で判定維持、または判定改善^{※6}した人の割合

※3：昨年度と今年度の健康診断結果において、対象 9 指標^{※5}のうちいずれかを判定改善^{※6}した人の割合

※4：アンケート調査において、健診戦実施により行動または意識が変わったと回答した人の割合

※5：肝機能、脂質、尿酸、糖、血圧、視力、尿蛋白、メタボリックシンドローム、BMI

※6：医療機関が定めた判定基準による判定結果（A~E療養中の方は除く）を元に、昨年度と今年度で比較し良い判定へ変化した場合を改善としています。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社博報堂DYホールディングス グループ広報・IR室 江渡・戸田 TEL：03-6441-9062